

「2025 日本万国博覧会」基本構想 府案【概要版】

基本理念〔1～2頁〕

- 21 世紀の健康の問題は、世界全体の課題
- 高齢化の波は、先進国から世界各国へ拡大
- 2025 年は、本格的な超高齢社会や超スマート社会の到来など、新たな社会に向けた変革期に

人類の知を集集し、健康に関する課題解決に向けた挑戦を重ねることで、世界中の人がよりよく生きる社会の実現をめざしていく契機にしたい。

➔ 人類社会の発展に貢献する “新しい国際博覧会” を

2025 年に国際博覧会を開催する意義〔3～5頁〕

- 最も早く超高齢社会に突入する日本は、「超高齢社会」課題の解決策を世界に示すことができる唯一の国家
- 世界から先進的な知を集めるにふさわしい地である大阪
 - ・住民の独創的アイデアで発展、庶民の文化が華開いた都市
 - ・製薬・医療関連の最先端な産官学の研究開発拠点がネットワーク
 - ・中小企業の「つくれないものはない」といわれるほどの高い技術力 など
- 万博開催を、健康に関する課題解決に向けた「絶好の機会」と捉え、「社会実験の場」として、大阪・関西のポテンシャルを活かし、**官民を挙げた取組みを展開**

社会にあり方を提案した 70 年万博から約 50 年が経過、
➔ **2025 年に再び、大阪の地で、次の 50 年に向け、人類の課題解決策や新たなライフスタイルを提案へ**

テーマ案〔6～9頁〕

テーマ案 **人類の健康・長寿への挑戦**
(英語仮題) Our Health , Our Future

【基本理念に基づいたテーマ案の考え方】

- 世界中の人々が、健康にかかる様々な課題を克服し、よりよい生活を送ることができるよう、その先にある「人生 90 年時代」における新しい生き方や社会・都市のあり方、その広がる可能性について、世界から知を集め、**新たなモデルとして広く世界に発信**することで、未来社会に向けた行動を呼びかける。
- 「健康」を次世代へとシームレスにつなぎ、次世代を担う若者への**明るい未来のメッセージ**とする。

- ◇ 「健康」とは、「世界中のあらゆる人が、年齢、性別、障がいの有無、生まれた場所、社会的・経済的状況にかかわらず、与えられた人生を、その人らしく、楽しくいきいきと過ごすこと」とする。
- ◇ 「健康を支える分野は」、子どもから高齢者にいたるまで生活を豊かにする、充実させる分野すべてにわたり、そのすそ野は広い。
- ◇ 世界と課題共有できるよう、3つのサブテーマ「科学と技術の発展・応用」「生活と文化の多様性の尊重」「地球環境の保全と共生」を設定
⇒ テーマに基づく事業展開がイメージしやすいよう、「健康に貢献する第 4 次産業革命」の視点を提示

事業展開〔10～14頁〕

【コンセプト】 「参加・体験」によって、“人類の健康・長寿への挑戦”に向けた行動を呼びおこす「交流の舞台」

- ・開催前から、世界に向けて「知の創造」を呼びかけ、万博で「知を集集」
- ・万博で得られた成果を世界に向けて広く発信

楽しくいきいきと
生きられる社会の
実現

➔ 「世界規模での挑戦、変革を誘発する万博」をめざす

- (1) 世界中の人々が主体となって参加でき、“心も体も健康になる万博”に！
- (2) 提案を受け付け、新技術等の社会実験により万博での取組みを社会に還元！
- (3) 未来を担う子どもや若者の行動を呼び起こす万博に！
- (4) 大阪・関西のポテンシャルをいかした事業展開！

- ◆ 具体的展開分野 (例) ・健康になるまちづくり、健康に資する衣食住、スポーツなどの新たな提案
・芸術の可能性、伝統と文化、観光、美容、先進医療、AI、ロボットの提案 など

＜主要な施設・事業の展開イメージ＞

テーマ館 (例) 人類の健康・長寿への挑戦、過去から現在、そして未来へ

公式参加国等パビリオン (例) 世界から“知”を集める

◆ 日本ゾーン (例) 健康・長寿社会をつくる日本からの提案

- ・健康・長寿社会を実現する多様な製品やサービスを提案
- ・健康・長寿社会をつくる「知」と「技」のネットワーク
- ・国・企業などによる実証実験
- ・関西一丸となった取組み



開催期間・入場者想定規模

- 開催期間 (17 頁) 2025 年 5 月～10 月を核とした期間 (6 か月)
- 開催主体 (17 頁) 政府が認めた法人等
- 入場者想定規模 (20 頁) 3000 万人以上
* 交通利便性やインバウンド効果もあり、さらなる来場者数の増加が見込まれる。
* 海外からより多くの人々が来場する万博をめざす。

2025 日本万国博覧会
人類の健康・長寿への挑戦
(Our Health , Our Future)

開催場所・会場規模等

■ 開催場所 (15～16 頁) 大阪市臨海部の「夢洲」を想定

◆ 会場規模 (18 頁) 万博会場として約 100 ha を想定

- ・IR を含む夢洲まちづくり構想の進展の状況を踏まえ、具体的な区域設定や利用計画を検討
- ・約 100ha のうち約 60ha の用地にはテーマ館や参加各国のパビリオン、園路等の配置を検討。
- ・会場内を楽しく歩きたくなるような、アクティブデザインによる施設整備も検討

◆ 輸送・宿泊計画 (21～25 頁)

- ・地下鉄中央線(北港テクノポート線)の延伸に伴う夢洲駅(仮称)からのアクセスを軸とし、主要駅や会場周辺に設ける駐車場からのシャトルバスを運行。
- ・来場者の宿泊は、府域と近隣府県市の宿泊施設の活用により対応。

◆ 環境への配慮 (30 頁)

- ・万博会場づくりでは、自然環境等に十分配慮した会場整備や環境の負荷の少ない施設整備を推進。
- ・日本発・世界初をめざした最先端の技術・ノウハウを集集し、持続可能なまちを実現する。

長期的地域整備〔28～29頁〕

■ 万博で掲げた理念を、開催終了後も継承

- ◆ 国籍や世代を超えて誰もが参加し、実践できる「健康になるまち」に。
- ◆ 健康をキーワードに、幅広い分野での投資を呼び込む環境づくりを。
- ◆ 健康をテーマにした国際的なエンターテインメントや芸術・文化機能を集積
- ◆ 万博の成果を関西全体で活かし、理念を継承。

国際社会・参加国・日本・大阪への効果〔34～35頁〕

◆ 国際社会・参加国への効果

- ・国際社会へ健康についての課題解決策を提示
- ・アジェンダ 2030「あらゆる年齢のすべての人々の健康的な生活を確保」に寄与
- ・参加国の文化・技術・メッセージを世界に発信する機会創出
- ・相互交流による国際社会の平和的進歩

◆ 開催国 (日本) への効果

- ・国際的地位の確立 (ジャパブランドの確立等)
- ・2020 年オリンピック後の経済成長の維持発展
- ・国民の健康増進等 (健康寿命の延伸、その結果として社会保障費の増加抑制)

◆ 開催地への効果

- ・副首都・大阪の発展に寄与し、東西二極の一極として、日本の成長をけん引
- ・府民の健康の向上

全国への経済波及効果 約 6 兆円



※アクティブデザイン：活動的なライフスタイルを目指して建物や通りのデザインを変えること